

## 2018年「新年賀詞交換会」を開催

2018年1月5日（金）、日本船主協会は国会議員の先生方や、国土交通省・防衛省等の関係省庁、関係業界や団体、当協会会員会社等から600人を超える方々をお迎えし、海運ビルで新年賀詞交換会を開催しました。



当日は600人を超える方々が参加



武藤会長

会の冒頭、武藤光一当協会会長（商船三井会長）が挨拶に立ち、「世界経済はいわゆるスロートレードからは脱却しつつあり、海運市況にもようやく薄日が差してきた」との見方を示す一方、海運業界には重要課題が山積しているとして、わが国船社が世界の海運会社と同等の条件下で競争できるイコルフットィングの重要性を強調するとともに、これに関連して2018年度税制改正で国際船舶に係る登録免許税、固定資産税の特例措置延長が認められたことに謝意を述べ、また、本年4月から再拡充されるトン数標準税制の円滑な実施に向けて関係方面の支援を要請しました。更に同じく重要課題として、海運の重要性に関する認知度向上に向けた活動や、船舶に関連する環境規制強化の動きへの対応、ソマリア沖・アデン湾等における海賊問題への対応を挙げた後、関係各方面にとって本年が様々な課題を解決できる実り多い年となってほしいとの期待を述べました。

続いて来賓の皆様を代表し、あきもと司国土交通副大臣よりご挨拶があり、わが国海運業界の競争力維持に向けたエールをいただくとともに、国交省としても税制改正等を通じ引き続き日本海運業界の競争力強化を支援していきたいとお言葉をいただきました。



あきもと国土交通副大臣



村上副会長

次に村上英三当協会副会長（川崎汽船社長）が「本年が日本の海事クラスターにとって、復活・回復を実感できる年となってほしい」との期待を示しつつ乾杯の音頭を取った後に歓談に移り、会場では参加者の皆様が親睦を深め、新年を盛大に祝う賀詞交換会は盛会のうちに終了いたしました。